

オール3区駅頭集会 (越谷・草加) が開かれました

6月5日(日)10:00～11:30 越谷駅東口広場で「オール3区(越谷・草加) 駅頭集会」(オール越谷市民アクション・オール草加総行動 共催)が行われました。

スローガンは、「ロシアは侵略やめよ!! ウクライナに平和を!! (9条改憲 NO !!)」を掲げました。

野党の政党挨拶、うたごえ合唱団、ギター演奏による「友よ」の合唱、市民団体の挨拶などで盛り上がりしました。平和を願い、憲法を生かした、地域草の根運動の大切さが強調されました。集会後は、市役所までパレードをして流れ解散になりました。350人の集会参加は、15地域で最大規模の集会でした。

世界中で、プーチンによる核攻撃の威嚇や残虐行為を批判する国際世論が高まっています。日本では、ロシアのウクライナ侵略に乗じて「憲法9条」攻撃や「核共有」論が叫ばれています。しかし、力対力でなく、憲法9条を生かし、対話して平和をつくる外交を貫くことが求められ

ています。防衛費の2倍化をバイデンやG7で約束した岸田首相の国会無視、財源を一切語らない暴挙は許されるものではありません。

全県では、15地域・中央の取り組みに合計6235人の参加がありました。中央の集会では、埼玉弁護士会・連合埼玉・埼玉連の3団体、4つの協賛団体、野党3党などの参加がありました。集会の中では、立憲野党の共闘を進めるには、市民による運動が大切であることが強調されました。(河田隆司)



越谷市議会議員のリリーススピーチ

5.14 沖縄日本復帰50周年集会 越谷駅東口で130人参加

①初めにゲストスピーカーの明有希子(あきらゆきこ)さんから、2017年末当時、娘さんが通園していた宜野湾市にある保育園に米軍機からの部品落下事故があり、上空飛行禁止を求める沖縄県や内閣官房、防衛省等への署名、要請行動などの経験を聞きました。「沖縄では空からの落下物が多く、ヘリからコンテナが落ちるなど異常です」と。明さんは基地が無くなると復旧したことにはならないと思う。娘たちの将来のために頑張りたいと涙ぐみながら訴えました。

②次いで、8弦チャンプルが三線演奏。沖縄民謡、「沖縄を返せ」や「変なおじさんの替え歌」など5曲奏でてくれました。唄三線と5弦(ギター)で8弦となると聞きました。

③市民スピーチの最初は角田妙子さん。元、越谷の小学校で教員。「皆さんとは一緒に沖縄へよく行きましたね。在日米軍の7割以上が沖縄にある。基地のない、平和で、豊かな沖縄になると良いね。ピラマキを手伝ったり、普天

間基地や高江や辺野古で座り込みながら沖縄の人の話を聞いたり、歌を唄ったりしました」と。

④2番目に私が指名され、私は「不屈館」「各種チャンプルや沖縄焼酎43度の泡盛の美味しさ」等を紹介。コロナ禍が一段落後、「沖縄辺野古基地建設反対の行動に、観光を兼ねて行きましょう」と呼びかけました。

⑤突然、若い一人が飛び入り、「この集会はツイッターで知った。面白そうなので来てみた。皆さんは古き良きものを持っている。日本国民として皆さんを応援したい。頑張ってください」と一言発言。

⑥最後に、10～20代を含む5人の「月桃の花歌舞団」による沖縄エイサー踊りが登場。彼らは各地に出かけ、平和・貧困・非正規労働など「社会的問題」をテーマにミュージカル・エイサーなどの表現で活動しています。

⑦集会閉会后、越谷市役所までパレードしました。

(飛山幸夫)

越谷市議会で「沖縄戦戦没者の遺骨等を含む土砂を埋立てに使用しないよう求める意見書」可決!

先の戦争における沖縄戦では一般住民を巻き込んだ悲惨な地上戦が行われ、多くの尊い命が失われた。糸満市摩文仁(まぶに)の平和記念公園内にある「平和の礎」には埼玉県出身者も含め24万1632名の氏名が刻銘されている。埼玉県は昭和41年に埼玉県出身者を慰霊するために「埼玉の塔」を建立して、戦没者の霊を弔ってきた。糸満市摩文仁を中心に沖縄本島南部地域は今なお遺骨が残されており、77年たった今も遺骨収集が行われている。昨年2021年7月に沖縄戦没者遺骨収集ボランティア「ガマフヤー」の代表具志堅高松氏が全国の市町村議会に向けて議員提案として要請文を出し

た。辺野古基地建設で軟弱地盤改良のため大量の土砂が必要となり、遺骨のまだ残っている南部も対象となったことに対する怒りの行動である。戦争で犠牲になった人々の遺骨の入った土砂を埋立てに使用することは人道上許されるものではない。

昨年来、次々と意見書が各市町議会で採択される中、越谷市議会では6月議会で議員提案として意見書を提出。賛成20、反対11(自民党、刷新クラブ)賛成多数で可決されました。

(清水泉/越谷市議会議員 越谷市民ネットワーク・袋山)

越谷九条の会ニュース

事務所 〒343-0813 埼玉県越谷市越ヶ谷1-11-35 吾山ビルⅡ3F 石河綜合法律事務所内
TEL.048-964-7511 FAX.048-964-5280 郵便振替 00140-3-426889 越谷九条の会



6月5日、越谷駅東口広場で、「オール埼玉総行動」(中央会場北浦和公園)と連動した「オール3区駅頭集会」が開かれた。集会後、市役所までのコースをデモ。
(4ページに報告記事)

9条で国が守れるか

安藤博

●「バカヤロウ」 越谷駅前ロータリーや山手線巣鴨駅頭で9条護憲の街宣活動をしていると、「9条で国が守れるのかよ」と厳しい顔で罵声を浴びせるおじさんがいます。2月24日ロシアがウクライナを侵略し、子ども、老人、病人を含めて殺戮を重ねているなかで、それは以前にも増してけわしいものになっています。「バカヤロウ」が加わることもあります。

参院選で、自民党は改選過半数を大きく上回る圧勝。立憲民主党は比例区で維新の会にも越されたりするなど惨敗。改憲勢力は、議席倍増の維新の会を加えて参院議席の三分の二を上回り、衆議院とともに改憲発議が可能となりました。野党勢が候補者を一本化出来ずに自滅的敗北を招いた事の上に、投票日前日テロで倒れた安倍晋三・前首相の改憲への執念が重なっているかもしれません。岸田文雄首相は「出来るだけ早く改憲発議を」と言います。「国防予算の対GDP比目標(2%以上)」、「弾道ミサイル攻撃を含むわが国への武力攻撃に対する反撃能力を保有」と唱えて改憲に乗り出そうとする自民党が、「専守防衛との整合性など多角的観点から検討を行い着実な防衛力整備を行う」という選挙公約の立憲民主党より、ウクライナ下では多くの選挙民にとって頼もしく思えたのではないのでしょうか。

「9条はダメだ」は、以下のようにも論じられています。佐伯啓思/京都大学名誉教授が『朝日新聞』(2022/7/1)の「異論のススめ」で記しているのは、「憲法9条の平和主義は事実上条件付きのものである」こと、条件とは憲法前文の「平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼して」であって、今日の世界ではもはやこの条件は成立していない、というのです。

●地政学的偶然 憲法学の専門家ではない私の考えることですが、9条で国を守るとか守れるかというのはやや筋違いの話ではないでしょうか。「(日本)政府の行為によって再び戦争の惨禍が起きることのないよう」に「国権の発動たる戦争の放棄」を謳ったのが9条でしょう。かつて東大法学部憲法第一講座担当を務めた憲法学の権威、小林直樹/教授が『憲法九条』(岩波新書)で記しているとおり、日本が9条を守っていれば「どこかの国が軍事力で侵略をするような蓋然性はきわめて低いと思われるが絶無とはいえない」のです。

そもそも日本が第二次大戦後の77年間、戦争をしないでこられたのは、私見では憲法9条のおかげでも日米安保の威力でもありません。身もふたもない言い方ですが、ウクライナのようにロシアや中国と陸続きでなく、また日本を侵略する必要、侵略することの利益を周辺国が持たないでいたという地政学的偶然によるものではないかと思えます。

●どさくさ紛れの防衛費倍増論 「ウクライナ」からの反射のように、防衛費2倍を言うのは、どさくさまぎれの兵器産業キャンペーンとしか思えません。台湾有事が迫っているようにも言われますが、常識的に考えると「ウクライナ」から中国がつかみとっているのは、武力侵攻がいかにコストがかかり、うかつに手を出してはならないということでしょう(もっと周到に、むしろ台湾内部からの侵食を図るのではないか)。

だから私は、「防衛費倍増」を言い立てる自民など改憲勢力4党を抑えられるよう、立憲民主党などの候補に投票しました。(全国) 比例区も選挙区も、投票した候補は当選しました。しかし、選挙の結果は全体として惨憺たるものです。向こう3年間、衆/参の国政選挙は(衆議院解散等がない限り)なくて、改憲にはもっとも望ましいお膳立てが出来上がったとも言えます。

「国を守れない、国の守りに妨げとなる9条をなくせ」の動きが進んでいこうとするのに対してどうすればいいか。ロシアのような国が、日本に凶暴な軍事攻撃を仕掛けてくるのが絶対ないと言い切ることはできません。そんな極端な危機を「9条で守る」ことができないことは、前述したとおりです。かといって、9条をなくし軍事費を増やせば安全になれるものでもありません。要するに、ロシアのウクライナ侵略に直結して9条の可否をいうことは出来ないのです。

●やはり「9条を守ろう」 国家が軍隊を使って他国に切り取り強盗を仕掛ける第一次大戦前、100年前の国際状況に逆戻りしかねないなかで、私たちの平和と安全を守るにはどうすべきなのか。こうした基本的な問題に有効な答えを持ち得ないままに、自分はいまどうするかを考えます。

「ウクライナ」とは無関係に、越谷駅前などで憲法第9条を守ることを訴えます、「バカヤロウ」と言われても。この秋の沖縄県知事選は、辺野古に新たな軍事基地が建設されるのを食い止める闘いの正念場です。「台湾有事には、沖縄が米中対決の最前線になる」と危機を煽り、辺野古新基地建設に反対する玉城デニー現職知事の再選を阻もうとする自民党政権の企みに抗するため、9月11日の投票日に向け、前回、前々回の知事選と同様応援に出向くつもりです。

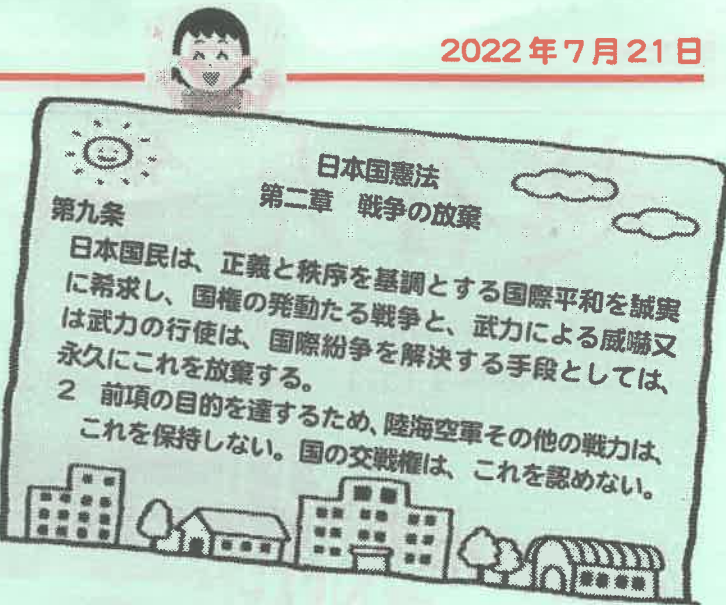
山口二郎氏の講演会と第18回総会の報告

今年も、2022年度の講演会と総会を、5月7日中央市民会館劇場にて、無事開催することができました。関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

昨年10月に行われた総選挙で、劣勢を伝えられた自民党が減少せず、優勢を伝えられた立憲民主党と共産党が逆に議席を減らしました。自民党より右寄りと評される維新の会の躍進もありました。そこで、野党共闘に尽力されてきた山口二郎法政大学教授を招いて、「立憲主義と民主主義の回復を」と題し、講演していただきました。参加者は80名ほどにとどまりました(ちなみに昨年は76名)。広報活動に工夫が必要と感じました。

山口さんは、野党共闘の必要性を早くから啓蒙してきた方です。今回の総選挙は、小選挙区でみると、野党共闘は必ずしも失敗しておらず、むしろ野党共闘の成果を、具体例を挙げて説明しました。「野党共闘の失敗」は与

活動報告 2022年4月～6月	
4・9	212回運営委員会(石河事務所) 10名 会報73号発行
4・28	安保違憲訴訟第2回控訴審(東京高裁) 45名
5・3	憲法集会(有明防災公園) 15000名 越谷より40名
5・7	第18回九条の会総会・講演会(中央市民会館劇場) 76名
5・14	沖縄復帰50周年越谷集会・デモ(越谷駅東口広場) 130名
5・25	臨時運営委員会、第1回灯ろう流し実行委(石河事務所) 8名
6・5	オール埼玉総行動・デモ(越谷駅東口広場) 350名
6・9	213回運営委員会・第2回灯ろう流し実行委(石河事務所) 10名
6・20	第3回灯ろう流し実行委(石河事務所) 11名



党側からの不正確なアピールであり、野党共闘を恐れていることの裏返しだ、とも説明され、立憲主義を守るためにも野党共闘を進めることの正しさと重要性を強調されました。

講演終了後、引き続き第18回総会が開かれました。45名が参加してコロナ禍のもとで憲法改悪に対抗すべく今後の行事予定を審議しました。ご参加の皆様ありがとうございました。また1年間よろしくお願いいたします。(石河秀夫)

「ウクライナ」とは無関係に、越谷駅前などで憲法第9条を守ることを訴えます、「バカヤロウ」と言われても。この秋の沖縄県知事選は、辺野古に新たな軍事基地が建設されるのを食い止める闘いの正念場です。「台湾有事には、沖縄が米中対決の最前線になる」と危機を煽り、辺野古新基地建設に反対する玉城デニー現職知事の再選を阻もうとする自民党政権の企みに抗するため、9月11日の投票日に向け、前回、前々回の知事選と同様応援に出向くつもりです。



党側からの不正確なアピールであり、野党共闘を恐れていることの裏返しだ、とも説明され、立憲主義を守るためにも野党共闘を進めることの正しさと重要性を強調されました。

講演終了後、引き続き第18回総会が開かれました。45名が参加してコロナ禍のもとで憲法改悪に対抗すべく今後の行事予定を審議しました。ご参加の皆様ありがとうございました。また1年間よろしくお願いいたします。(石河秀夫)

活動予定 2022年7月～9月	
7・9	214回運営委員会・第4回灯ろう流し実行委(石河事務所) 18:30
7・21	第5回灯ろう流し実行委(石河事務所) 18:30
8・4	安保違憲訴訟第3回控訴審(東京高裁) 14:00
8・6	第17回平和を願う音楽と灯ろう流しの夕べ(中央市民会館芝生) 17:30
9・9	215回運営委員会(石河事務所) 18:30
9・11	第11回ななサボ祭り(支援センター・東口ロータリー) 10:00

ウクライナに思いを馳せつつ陳述

埼玉の
安保法制違憲訴訟

●次回8月4日(木)14時～ 控訴審第3回口頭弁論(東京高裁)

4月28日、東京高裁で第2回控訴審口頭弁論がおこなわれました。

初めに原告の武内暁さんがロシアのウクライナ侵攻に対して、どうしたら戦争を食い止められるのか、日本国憲法前文と9条を国際化すること。裁判官には良心に従った公正な審理を求めると切り出しました。

1948年秋田県生まれの武内さんは、戦争中から教員であった両親の加害の罪に気づかされて悩み、三里塚闘争などへの連帯や、最近では九条俳句市民応援団結成にかかわってきて、むのたけじ氏から「戦争は始まったらすぐには止められない。始まる前に行動をおこすことだ」と言われたと強く訴えました。

次に1946年生まれ沼尾孝平さんが、所沢の国立秩父学園で障害のある子らとの生活に明け暮れて、ともに生きる喜びを味わわせてもらったこと。また共同代表の野島久美子さんの「障害者はごくつぶしと言われ、平和の中でしか生きられない」という言葉どおりの現実が

進行中で、教育界も報道界も戦争前夜の様相を呈していると訴えました。

次に伊須慎一郎弁護士が「2015年の安保法制成立により、米国防衛を含めた日米同盟関係に基づく『軍隊の相互運用』がほぼ完成段階に至り、米軍と自衛隊の一体化がますます進んでいる。2017年当時の国家安全保障会議での軍事シミュレーション内容の情報開示を求めたがマスキングされていて読めない。この件で重要な役割を果たしている河野克俊前統合幕僚長を是非証人尋問したい」と述べました。

すでに北沢高裁判長は4月12日の進行協議で国側に対し、控訴人らの訴えに対し国側はどう釈明するのか、7月15日までに返事を求めています。ただし6月に定年退官することと、新しい裁判長に引き継がれることになりました。今回は8月4日(木)14時から東京高裁で行なわれます。みなさまの応援をよろしくお願いします。(倉橋綾子)

ある元裁判官の緊急提言 杉浦龍二郎

以下に紹介するのは、杉浦龍二郎さんの寄稿です。杉浦さんは、1990年に富山地方・家庭裁判所長を最後に依願退官され、越谷で弁護士をされていました。その後柏の老人ホームで余生を過ごされていました。本寄稿は、2013年5月の憲法記念日に、柏の地から私に送られてきた文章ですが、全く古さを感じず、むしろ今こそ読んでほしい内容だと思いましたので、転載します。(石河秀夫)

「次世代に伝えたいこと」

近頃、なんとなくキナ臭い匂いの漂うのが気にかかる。つまり憲法改正、とりわけ九条を改正し、国防軍を創設することが取りざたされていることだ。ほかの条文を改正するのなら、憲法を改正するための規定第96条の改正をする必要はない。

ここで、話は一気に70年近くも前に遡る。太平洋戦争が無条件降伏で終わったのは1945年8月15日、その時、私は栃木県の馬頭という町で本土決戦の尖兵として軍務に服していた。その軍務というのは、アメリカ軍が鹿島灘から戦車で上陸してくるのを迎え撃つべく、蛸壺と称する、人ひとりしか入れない塹壕を掘って、そのなかに爆薬を背に背負って密かに隠れ、敵戦車がその上を通過してゆく

を狙って戦車の下に潜り込んで雷管に点火、自爆し、よって戦車を擱坐させる、如何にすれば確実に目的を達成できるか、身命を賭して、敵兵の侵攻を阻止することを至上命令として、繰り返し繰り返し、その訓練に明け暮れていた。そのさなかにいわゆる玉音放送があり、自爆せずに一命を取り止めた。終戦が3ヶ月も遅れていれば、関東平野は戦場と化し、私はこの世に生存しておられなかったことはほぼ間違いないことと思われる。今度の戦争はこのような惨憺たる状況のなかで終りを告げたものであり、これが現に私が身をもって体験した、紛れもない終戦時の真相である。

厚生省の推計によると、太平洋戦争による軍人、軍属の死者は230万人、ほかに空襲などによる民間人の死者は80万人、それに広島、長崎での地獄絵図さながらの原爆の被害などといった、とてつもない膨大な犠牲を払ったことを絶対に忘れてはならない。

憲法九条は以上のような犠牲の代償として手に入れた宝物というべきものであって、米国の押しつけであろうと、絵空事と言われようと、構わない。これだけはなんとしても金輪際、死守しなければならない。

私の次世代に伝えたいことはただひとつ。不戦の誓い。



賛同者
賛同者
990人
(2022.6.30現在)

「越谷九条の会」趣意

- ①政党・宗教を持ち込まない
- ②個人で参加する
- ③誰でも参加できる(住所不問)
- ④決定は極力全員一致
- ⑤個人情報他目的に使わない
- ⑥会費なし、カンパで運営



会計報告 (2022.4.1～6.30)

(収入の部)		(支出の部)	
緑越金	446,318	ニュース印刷・用紙・作業代	13,338
カンパ	63,307	ニュース発送代	24,521
合計	509,625	山口二郎さん講演料	50,000
		会場費・懇親会費	22,499
		議案書・レジュメ用紙・印刷・作業代	15,610
		新聞折込代	2,800
		沖縄集会補助費	2,500
		ロッカー代	6,000
		駐車料	1,300
		備品費	330
		合計	138,898
		差引残高(緑越金)	370,727